

アメリカにおける 図書館サポートスタッフの動向

^a 山 本 貴 子
^b 大 城 善 盛
^c 漢 那 憲 治
^d 瀬戸口 誠

1. はじめに

筆者らは、『大谷学報』第90巻第1号に論文「アメリカにおける図書館職員の要件と資格」を掲載し、アメリカの図書館職員に対する名称、経歴、資格などを明らかにした¹⁾。その際、図書館サポートスタッフ（library support staff: 以下、LSS）についても言及した。その論文で指摘したように、これまで、わが国では「アメリカの図書館職員イコール専門職」といった図式でアメリカの専門職制を捉えてきたために、専門職制が十分に検討されてこなかった。

そこで、本稿では、いつ頃から図書館における非専門的職業がLSSとして認識され、そしてLSSがどのようにして社会的に認知されるようになったかを、待遇改善への対応などを含めて、時系列的に究明する。その際、LSS自身が起こした行動をLSS運動と捉えて、その活動を論ずる。また、LSSについて論ずる際には、ライブラリアンとの関連を欠かすことはできない。ライブラリアンの養成プログラムの認定に深く関わっているアメリカ図書館協会（American Library Association: 以下、ALA）がLSSに対してどのように

2 (山本, 大城, 漢那, 瀬戸口)

対処してきたか, その取り組みにも言及する。そうすることによって, アメリカの図書館職員に対して専門職の枠組みがどのように変化してきたか, についての理解を深めることができる。

アメリカでは, 図書館で専門的な業務に携わる人と非専門的な業務に携わる人の役割が明確に分けられており, 呼称も異なっている。さらに, 非専門職に与えられる呼称はさまざまであることは, 「アメリカにおける図書館職員の要件と資格」で既に論じたとおりである。

本稿では, LSS という用語を, ALA が規定する意味で用い, ライブラリアンに対する一般的な支援職の意味で用いる²⁾。支援職を表す名称には様々なものがあり, 各組織(図書館)によって, 意味するところには多少の違いがある。しかしながら, それらの差異を取り上げて個々に論じた場合, 相違のみが強調されるようになり, LSS の全体像が把握しにくくなる。したがって, 必要に応じて図書館技術助手(library technical assistants)などの名称を使用するが, 本稿での研究対象は図書館技術助手も含めた LSS すべてである。

また, 本稿では, 支援職に対する強調の意味で, 「専門職ライブラリアン」という用語を使用することもある。

2. 図書館サポートスタッフ(LSS)の出現

図書館サポートスタッフ(LSS)が社会一般に職業として認識され始めた時期については, 管見の限り, 明確ではない。しかし, 1920年代初頭のWilliamson 報告書では, 図書館の業務を専門的職務(professional)と事務的職務(clerical)とに分類しており, 業務内容に応じた教育内容の規定と教育の場の必要性が指摘されている³⁾。さらに, 1937年に, ロサンゼルス市立大学(Los Angeles City College)が図書館助手(library assistants)の養成コースを開始し⁴⁾, 1948年には, 米国農務省大学院課程(The U.S. Department of Agriculture Graduate School)において図書館技術者の養成プログラム(library technician program)が提供された⁵⁾。このように教育が開始されたという状況を考慮すると, 少なくとも, 1930年代から1940年代当時, 既にLSSに対する社会的

要請があったと推測される。さらに、1949年にはフォスト (Clarence Faust) やマクダーミド (Erret W. McDiarmid) が、図書館にはライブラリアンと支援職の両方が必要であると指摘している⁶⁾。よって、この頃には既に LSS が職業として社会的に認識されていたことが分かる。

3. 1960 年代

ジョンソン政権下、1964 年、「貧困に対する戦い (The War on Poverty)」が社会政策になり、経済機会法 (Economic Opportunity Act) が施行されたことが、短期大学における職業教育に対しても刺激を与えたと言われている。これには LSS 養成も含まれており、LSS の運動 (活動) にも影響を及ぼした⁷⁾。それゆえ、LSS 運動の開始は 1960 年代に始まると考えられる。

1967 年、短期大学における図書館技術助手 (library technical assistants) を養成する 2 カ年の準学士プログラム担当の教職員を中心に、COLT (Council on Library Technicians : 後に Council on Library/Media Technicians) が設立された⁸⁾。教職員たちは、将来、LSS が、より高度な技術的サービスを提供するよう求められ、さらに、知識・技術を継続的にスキルアップしていく必要に迫られるであろうという認識を持っていた。それが COLT 設立の主たる要因であった。

一方、ALA は、「低賃金ライブラリアン (cheap librarians)」を生み出すことになることを認識したので、LSS 養成のための 2 カ年プログラムに対して反対の立場を明確にしていた⁹⁾。しかし、そのような ALA の反対にもかかわらず、各コミュニティ・カレッジでは LSS 養成のための独自のプログラムが作られ、それらは社会的にも認知されていった。

1966 年、カナダ図書館協会 (The Canadian Library Association) が図書館技術者の必要性を認識し、その職種を認証した。その影響を受けて、ALA も 1968 年に Deiningner 委員会において、‘library clerks’ と ‘library assistants’ を職種として認めるようになった。

なお、1971 年の Ohio College Library Center (OCLC, 後に Online Computer Library Center と改名) の設立を LSS 運動の出発点とする理解の仕方もある

4 (山本, 大城, 漢那, 瀬戸口)

が¹⁰⁾, オーエン (Linda Owen) 等が論ずるように, 1967 年の COLT の創立を出発点とする方が適切であろう¹¹⁾。COLT はその後, LSS, 専門職ライブラリアン, 図書館運営管理者, 図書館情報学の教授などをメンバーに加え, 設立後 10 年も経ずして全米的な組織になった¹²⁾。

4. 1970 年代

1970 年, ALA 評議会 (ALA Council) は, 「図書館教育とマンパワー」 (Library Education and Manpower) という政策方針を発表した¹³⁾。LSS 運動という視点から見た場合, この政策方針の重要性は, ALA が LSS を「図書館アソシエーツ」 (library associates), 「図書館技術助手」 (library technical assistants), 「事務職員」 (clerks) の 3 種に区分し, その職務と資格を明確にしたことである。

それまで「図書館技術者」 (library technicians) という名称が広く図書館界で使われ, 彼ら/彼女らを養成する短期大学も多数存在していた。「図書館教育とマンパワー」では, 図書館技術助手の職務は基本的に技術的であり, 職務遂行に当たっては 4 年間の大学教育で習得する教養を必要としないとした。ALA は, 「図書館技術者」を少し異なる名称「図書館技術助手」で正式に承認したことになる。

「図書館アソシエーツ」という名称は, それまでの ALA の公式文書には存在しなかった。「図書館教育とマンパワー」では, 「図書館アソシエーツ」を, BA の学位 (4 年制の大学卒業) および, 多少, 図書館経験があることを必要とする職位であると規定した。「図書館アソシエーツ」とは, 日々の図書館実践を可能にする職務であり, 大学院レベルの図書館学の履修を必要としないという。換言すれば, 大学院レベルで学ぶ①図書館ニーズの同定, ②問題の解決, ③図書館の目標の設定, ④オリジナルで創造的なプログラムの形成, などを必要としないということである。「図書館アソシエーツ」の業務には, 理論と実践の統合や, サービス・プログラムの計画, 組織, 運営管理は含まれない。「図書館アソシエーツ」は, 計画を実践に移すが, 計画そのものを立てることはしないし, 計画の評価や変更に対する責任も負わな

い。それらのことは、専門職ライブラリアンの職務である。ALA は、新しく「図書館アソシエーツ」という職位をこのように定義した¹⁴⁾。しかし、その後の図書館現場での人的政策においては、ALA が「図書館教育とマンパワー」で示したとおりには行かなかった。

その後、「図書館教育とマンパワー」は 1976 年に「図書館教育と人的利用」(Library Education and Personnel Utilization) に変わった。そして、2002 年には、「図書館情報学と人的資源利用」(Library and Information Studies and Human Resource Utilization) という名称の政策方針になった。

また、ALA は、1971 年に「図書館・メディア技術助手養成プログラムの規準」(Criteria for Programs to Prepare Library/Media Technical Assistants) を作成し、1998 年に ALA 教育委員会 (ALA Committee on Education) によって「図書館技術助手養成プログラムの規準」(Criteria for Programs to Prepare Library Technical Assistants) の名称で改訂され、2004 年に ALA の正式方針として採用された¹⁵⁾。

COLT は、図書館や図書館職員の価値及び目標等で ALA と多くの共通点を見出し、1976 年に ALA の関係団体になった。また、COLT は、ALA の 1976 年年次大会の直前に「非専門職と専門職の職務」(Work Roles of Non-Professionals and Professionals) のテーマで会議を開催した。ALA 会員に COLT の会議の発表者や相談者になるよう依頼できる利便性を考慮したためであった。会議は成功し、その後、ALA の年次大会に合わせて、COLT は会議やワークショップを開催することとなった。

5. 1980 年代

COLT の大きな関心事の 1 つは、「図書館技術助手」の全米的な資格証 (national certification) であった。1981 年、COLT はその可能性を調査する特別委員会を設置した。特別委員会は、ALA、アメリカ教育工学・コミュニケーション学会 (Association for Educational Communications and Technology)、アメリカ法律図書館協会 (American Association of Law Libraries) などの代表によって構

成された。しかし、調査研究の結果、その実現性は乏しいことが分かり、実現可能になるまで行動を延期することを決めた¹⁶⁾。

一方、1980年代には、LSS 自身による運動が目に見える形で活発化していった。まず、1987年に、ニュージャージー図書館助手協会 (New Jersey Association of Library Assistants) が設立された。州レベルでは初めての LSS による独立した協会であった。翌 1988 年、ニューヨーク州図書館助手協会 (New York State Library Assistants' Association, 以下 NYSLAA), 1989 年には北カロライナ州図書館パラプロフェッショナル協会 (North Carolina Library Paraprofessional Association) が設立された。

1985年には、LSS であるスクウィア (Lucy Schweers) がコロラド図書館協会 (Colorado Library Association) の副会長 / 会長職に選出された。州レベルの図書館協会では、通常、専門職ライブラリアンがリーダーシップを発揮していたので、コロラド図書館協会の事例は異例であり、全米の LSS に大きなインパクトを与えた。コロラド図書館協会では、1993年に再度 LSS のリプタック (Stephany Liptak) が会長に選出された。

COLT は LSS へのコミュニケーション・メディアとして *Newsletter* を発刊していた。1989年、COLT 創始者の一人であるロニー (Raymond Roney) 個人が、LSS を対象としたジャーナル *Library Mosaics* を刊行した¹⁷⁾。これにより、COLT は *Newsletter* の発刊を中止し、COLT 会員は *Library Mosaics* の購読会員になった。*Library Mosaics* には遠隔教育¹⁸⁾、資格証¹⁹⁾ など、時宜にかなった記事が取り上げられた。この雑誌は隔月刊で刊行され続け、2005年に財政難で廃刊に追い込まれるまで、LSS をテーマにした唯一の印刷メディアの雑誌であった。*Library Mosaics* は、LSS の情報交換の役割を果たすと同時に、LSS 界の意見や考え方を代弁するメディアでもあり、また、多くの LSS の記事を掲載することにより、LSS の文章能力のスキルアップにも尽くした。

しかし、インターネットを含む IT が進展するにつれ、*Library Mosaics* は 21 世紀にその役割を終えた。1990 年代に入ると、無料の電子メディアが出

現しはじめた。1992年にはLSSのためのリストサーバ²⁰⁾が導入され、1994年には無料電子ジャーナル *Associates: The Electronic Library Support Staff Journal*²¹⁾ が出現した。2000年には、ニーダーランダー (Mary Niederlander) が就職情報も含めた、LSSのための総合的なwebサイト: *LibrarySupportStaff.com*²²⁾ を構築した。それらの影響で *Library Mosaics* は刊行を維持するための十分な購読者を確保することが困難になった²³⁾。

6. 1990年代

6.1 オバーグの調査²⁴⁾

1990年、オバーグ (Larry R. Oberg) がアメリカ国内の大学図書館に勤務しているLSSに対して、その任務、地位、労働条件についての調査を行った。調査対象・調査範囲とも、アメリカ国内では初めての試みであった。ただし、この調査では事務職員 (library clerks) は除外された。

対象は、1987年版カーネギー分類 (Carnegie Classification of Institutions of Higher Education) に含まれていた2747機関の図書館と Association of College and Research Libraries (以下、ARL) に加盟する全機関108である。そのうち、前者からは488図書館が無作為抽出され、後者は悉皆調査となった。なお、この2つの標本に重複はない。質問項目は21から成り、有効回答は、前者が390 (回答率80%)、後者が77 (回答率71%) と、両者とも高い回答率であった。

調査の結果、職員数の増減に関して、全体の約25%の図書館では、過去20年間でLSSが増加し、ライブラリアンが減少したと回答していた。50%弱の図書館はライブラリアン、LSSともに増減なしと回答した。ライブラリアンが増加し、LSSが減少したと答えた図書館は10%弱であった。約8%の図書館では、ライブラリアンの数は変化せずLSSだけが増加していた。

職務内容への質問に関しては、全体の51%がオリジナルの記述目録作成業務に、36%が主題分析と分類業務に、LSSを配属していた。かつては、ライブラリアンに独占的であった職務領域も、調査時点では、日常的にLSS

へ委譲されていた。また、学術図書館 (research library) の場合、ライブラリアンと LSS の間の職務の重なりは広範囲に及び、任務の境界が不明瞭になっていることが判明した。

6.2 World Book-ALA プロジェクト調査²⁵⁾

1991 年, *World Book*²⁶⁾ と ALA 合同の LSS プロジェクト (*World Book-ALA Goal Award Project on Library Support Staff*) は, LSS が抱えている課題を同定するために, LSS 自身やライブラリアン等を対象に複数の調査法を用いて調査を行った。そして, ① LSS の資格証 (certification), ②基礎的な教育 (basic education), ③継続教育 (continuing education), ④ライブラリアンと LSS 間のコミュニケーションと互いの敬意 (communication and mutual respect among librarians and paraprofessionals), ⑤報酬 (compensation), ⑥昇級 (advancement), ⑦権威なき責任 (responsibility without authority), ⑧用語 (terminology), ⑨役割定義 (role definition), ⑩モラル (morale), の 10 の課題を同定した。

6.3 州図書館協会の動向

1990 年代には, 一気に各州の図書館協会に LSS を対象とした委員会や支部などが置かれるようになった。1991 年, アイオワ図書館協会 (Iowa Library Association) の春季会議が催され, 会議の中心的存在であったウィーベル (Kathleen Weibel) が「我々は図書館で働いているが, (専門職) ライブラリアンではない」 (“I Work in a Library, But I’m Not a Librarian”)²⁷⁾ というワークショップを開いた。このワークショップは, それまでの LSS 運動に拍車をかけた。そして, 同 1991 年, アイオワ図書館協会にサポートスタッフ・ラウンドテーブルが設置された²⁸⁾。

1992 年, オレゴン図書館協会 (Oregon Library Association) にサポートスタッフ・ラウンドテーブル (Support Staff Round Table), ワシントン図書館協会 (Washington Library Association) にはワシントン図書館被雇用者協会 (Washington Association of Library Employees) という名称の LSS の支部が設置された。また,

南部の州の協会である南東部図書館協会 (Southeastern Library Association) には、パラプロフェッショナル・ラウンドテーブル (Paraprofessional Round Table) が設置された。

1993 年, COLT は, LSS の養成, キャリアパス, 職務, 責任等の課題について, ALA と合同会議を開催した。その結果, ALA の中にサポートスタッフ利益ラウンドテーブル (Support Staff Interests Round Table, 以下 SSIRT) が新設された。

1995 年, NYSLAA は “Certificate of Achievement” という名称の資格証プログラムを開始した。これは, LSS が獲得すべき教育・能力を認めることであり, このプログラムの全般的な目的としては, LSS の功績を認め, NYSLAA が, LSS の業務遂行能力の質に対して認証することであった。同年及び翌 1996 年に, 「卓越性の追求」 (Soaring to Excellence) と銘打って, LSS のための全米テレビ会議が開催された。また, Library Support Staff Resource Center という web サイトが構築され²⁹⁾, *Journal of Education for Library and Information Science* は LSS 特集を組んだ³⁰⁾。

1995 年以降, COLT は, *Library Mosaics* と共同で, 最優秀の LSS (Outstanding Support Staff of the Year) と最優秀の支援者 (Outstanding Supporter of Support Staff) を表彰するようになった。最初の最優秀 LSS 賞は, トルバート (Ruth Tolbert) に授与された³¹⁾。彼女は, 中央インディアナ地域図書館組織 (Central Indiana Area Library Authority) の運営管理の助手をしていた。最初の優秀 LSS 支援者賞は, マイズナー (Arolana M. Meissner) に授与された。彼女はアルフレッド大学 (Alfred University) の図書館長であり, 図書館自動化が進展する中で職員の研修が必要になり, 職員研修のための特別助成を求めた。そして, 図書館組織の再編プロセスの中で, 全ての図書館職員を計画プロセスに参加させ, すべての職員に委員会 (committees) や作業委員会 (task forces) のメンバーになることを奨励したことなどが受賞の理由であった。これらの賞は, *Library Mosaics* が廃刊になる 2005 年まで続いた。賞の授与は, 受賞した本人だけでなく他の LSS や LSS 支援者への励みになり, かつ, COLT や

Library Mosaics の存在感や重要性を示すことになったと推測される。

6.4 SSIRT の実態調査³²⁾

1997 年, SSIRT は LSS の抱えている課題を同定するために, 実態調査を実施した。約 1900 人からの回答があり, その結果, 以下の 3 つが最重要課題であることが分かった。

- 1) キャリアパス (昇進の機会がほとんどない)。

(Career ladders [few opportunities for advancement])

- 2) 教育, 経験, 責任の重さに合った報酬がなされていない。

(Compensation not appropriate to level of education, experience, and responsibilities)

- 3) 継続教育や研修の機会が極めて少ない。

(Access to continuing education and training opportunities)

なお, 回答者の学歴を調べてみると, 約 33% が高校卒, 約 15% が短期大学卒, 約 38% が 4 年制大学卒, 約 10% が MLS も含めた修士号保持者, であった。また, 「資格証, もしくは統一基準での技能試験がサポートスタッフの抱えている課題の一つの解決策になる」³³⁾ というコメントもあった。

上記三つの最重要課題の解決策を探るために, SSIRT は 3 つの作業委員会を設置した。すなわち, ① Task Force on Career Ladders (few opportunities for advancement), ② Task Force on Compensation (not appropriate to level of education, experience and responsibilities), ③ Task Force on Access to Continuing education & Training Opportunities である。後述するように, キャリアパス作業委員会 (Task Force on Career Ladders) は 1999 年に, 他の 2 つの作業委員会は 2000 年に最終報告を作成し, SSIRT 評議員会 (SSIRT Executive Board) に提出した。

LSS の資格証に関心を持っていた COLT は, 同じ 1997 年に, 以下のような声明文を公表した。

COLT は 1980 年代中期に, 図書館 / メディア・サポートスタッフの全米的資格証プログラムを検討課題とした。その時は, MLS を所持し

ないミニチュア・ライブラリアンを生み出し、プロのライブラリアンだと利用者を欺くことになり、質の低いサービスにつながる、とライブラリアンと図書館経営管理者から強い抵抗があり、諦めた。

1990年代中期になり、COLTは再度、全米的資格証プログラムの重要性を認識し、その可能性の調査を開始した。サーベイ調査をしたところ、資格証プログラムに対する強い支持があることが分かった。

図書館学部の開鎖は、ライブラリアンの減少をもたらした。以前ライブラリアンによって遂行されていた業務の再編によって、図書館/メディア・サポートスタッフは強い影響を受けている。例えば、以前ライブラリアンによって遂行されていたコピーカタロギングは、現在、パラプロフェッショナルによってなされている。

COLTは、大規模図書館システムが各々独自の基準を保持していることを認識している。しかし、地方、州、国レベルの基準が必要であり、そしてそれらの間に一貫性が保たれていることの必要性を認識する。全米的資格証プログラムは異論が多いし、専門職の地位を格上げし、ライブラリアンと図書館のイメージを進展させようと努力しているライブラリアンたちは守りの姿勢に入ると推測されるが、それにも関わらず、COLTは彼ら/彼女らの支持を期待する。

COLTは、図書館/メディア・サポートスタッフのための、労働組合でない最古の組織である。そして、COLTによって実施される全米的な試験の開発に邁進している。他の図書館組織やサポートスタッフ組織との共同作業はあり得ることである。この試験のメリットは、能力を示す証明書を全米的に持ち歩くことができ、そして、多くの適切な職を選ぶことができることである。高スキルを所持する図書館職員の需要は増してきている。我々は、図書館/メディア技術者や他のサポートスタッフのための全米的な資格証プログラムのコンセプトを進展させることに努力する³⁴⁾(抜粋)。

〈SSIRT キャリアパス作業委員会最終報告〉

SSIRT キャリアパス作業委員会は, 1999 年に最終報告を作成し, 以下の
ような【ニーズ (課題)】と【行動計画】を SSIRT 評議員会に報告した³⁵⁾。

【ニーズ (課題)】

- 1) 昇級につながるスキルや能力を同定する機会。
- 2) 身につけているスキルやパーソナリティを, 図書館類型や図書館サービス類型へ適用させる方法を見つける機会。
- 3) 高位の職務へ昇進するためのスキルを発達させる機会。
- 4) 1)~3)のスキルを習得するための良質な教育や職場研修プログラム (正式の短期大学の代替)。
- 5) 特定の職務に限定しない教育や職場研修プログラム。
- 6) ライブラリアンとサポートスタッフの緊密な関係を実現するための課題の同定。
- 7) 求人情報の情報源。
- 8) 職務分析と職務評価による職階の評価。

【行動計画】(2000 - 2001)

- 1) 訓練 (training) と能力開発 (development) の相違を明確にすること。
SSIRT は, 調査して明確にするか, もしくは他の委員会に尋ねて明確にすること。
- 2) 全ての職員の能力開発に対する図書館の責任を明確にすること。
- 3) 職員と図書館にとっての教育の価値を明確にすること。

【行動計画】(2000 - 2002)

- 1) 図書館の類型, 職務レベル, 特定領域における LSS の職位にふさわしい能力を同定すること。
- 2) 上記の課題に関して教育する専門家を同定すること。
- 3) ライブラリアン (the profession) を教育するフォーラムや行事を開催すること。
- 4) 経験のあるライブラリアンと図書館経営管理者に, 彼ら/彼女らの図

書館の使命感やビジョンを尋ね、図書館の目標を達成するために LSS はどのような支援ができるかについての助言を得ること。

- 5) 州の資格証プログラムを調査すること。
- 6) 原理, 利用者サービス, テクニカル・サービス, ICT, の4領域における基本レベルの能力育成を目的とする任意の (voluntary) 資格証プログラムを開発すること。
- 7) いくつかの図書館を選択し, そのキャリアパスと業務の要件を調査すること。

6.5 ALA の倫理綱領

1939 年に制定された「図書館員の倫理綱領」(1939 Code of Ethics for Librarians)³⁶⁾ が, 1997 年, 約 60 年ぶりに全面改訂され「ALA の倫理綱領」(Code of Ethics of the American Library Association)³⁷⁾ となった。タイトルが変わり, さらに, それまで “The librarian should perform”, “The chief librarian should keep” のように, 主語が “librarian” であったものが, “We provide”, “We uphold” と, “We” に変わった。これも, LSS 運動の大きな, 成果であった。

7. 2000 年以降

7.1 SSIRT 報酬作業委員会最終報告

1997 年の実態調査をもとに, SSIRT 報酬作業委員会 (SSIRT Task Force on Compensation) は, 2000 年に最終報告を作成し, SSIRT 評議員会に提出した。報告書は, ① SSIRT の 1997 年調査を分析するとあまりにも多くのサポートスタッフの職名があり, 有効な職務分析の妨げとなっている, ②図書館パラプロフェSSIONナル, LSS, 経営管理的職位, 事務的職位, の4つの相違を明確にすることが重要である, と指摘している。さらに, 以下の項目を推奨している (抜粋)³⁸⁾。

- 1) ALA は, LSS のための全米的な資格証プログラムを設置すること。
- 2) ALA は, スキル訓練プログラムに参加した人が習得した知識・技能を

認識し評価するような人的利用計画を開発し、実施すること。

- 3) ALA は、LSS の職位を事務職から切り離すこと。
- 4) ALA は、LSS が新たな教育、もしくは継続教育を受けられるよう、奨学制度を設けること。
- 5) ALA は、LSS のことに関して図書館経営管理者を教育すべく、積極的な広報活動を始めること。

7.2 SSIRT 継続教育及び訓練の機会へのアクセス作業委員会最終報告

SSIRT 継続教育及び訓練の機会へのアクセス作業委員会 (SSIRT Task Force on Access to Continuing Education & Training Opportunities) は、2000 年に最終報告を作成し、SSIRT 評議員会に提出した。報告書の要旨は次のとおりであった³⁹⁾。

技術的变化と今日の図書館の進展は LSS にとって最も関心のあるところである。データベースやインターネット、その他の資源の急速な発展にも関わらず、それら資源を使用する職員への十分な研修は行われていない。我々の調査に答えた LSS は、新技術、インターネット、他のコンピュータ・スキルに対する研修を 3 つの最優先事項に挙げた。それと関連して、職員はそれら新技術を実践し学習する時間が必要である。

過去において、研修の機会では専門職のライブラリアンが優先された。以前ライブラリアンのみによって遂行されていた業務のいくつかをサポートスタッフが遂行するようになった現在、すべての職員が同等の研修を与えられる必要がある。職員の研修プログラムの成功の鍵は財政的支援であり、LSS もライブラリアンと同様、財政的支援を与えられる必要がある。

上記の要旨に加えて、報告書は次のような【ニーズ (課題)】を記している (抜粋)。

- 1) 図書館管理経営者は進んで LSS に継続教育及び研修を与える必要がある。
- 2) LSS は業務の一部として継続教育及び研修に参加する機会が必要である。

- 3) 図書館は, LSS が行事に参加する予算を確保する必要がある。
- 4) 図書館は, LSS が継続教育に支払った授業料を LSS に払い戻すべきである。
- 5) ALA は, LSS が年次大会以外の活動にも参加できるよう, さらに助成金を準備すべきである。
- 6) 継続教育及び研修は地方 (rural areas) でも行われる必要がある。また, テレビ会議, ビデオ, オンラインでも行われる必要がある。
- 7) 給料のアップは, 継続教育及び研修の修了とリンクされるべきである。
- 8) LSS が使用することを期待されている新技術に対して, より多くの研修が必要である。
- 9) より良い利用者サービスのための研修も LSS にとって優先事項である。

7.3 第3回専門職教育会議：図書館サポートスタッフに焦点を当てて

1999 年開催の COPE1 (1st Congress on Professional Education: Initial Education for the Profession) では, 新人ライブラリアンへのニーズの変化がテーマであり, 2000 年開催の COPE2 (2nd Congress on Professional Education: Continuing Professional Development) でも, ライブラリアンの専門的能力の継続開発がテーマであった。

一方, 1997 年の, LSS に関する実態調査の結果が公表され, さらに, 1999-2000 年にかけて 3 つの作業委員会から報告書を受理していた SSIRT は, 報告書に盛り込まれている LSS の課題についての解決策として, 2001 年の ALA 理事会 (ALA Executive Board) において, COPE1 及び COPE2 のような会議の開催を申請した⁴⁰⁾。その結果, 2003 年に, 「第3回専門職教育会議：図書館サポートスタッフに焦点を当てて」 (3rd Congress on Professional Education: Focus on Library Support Staff: 以下, COPE3) が開催された。COPE では初めて LSS に焦点を当てたテーマとなり, LSS 運動の中でも最大のイベントとなった。

会議の代表者選出に当たっては様々な方法が用いられ, 州や地域の LSS

協会からの代表も含めて、種々の関係団体からの代表 154 人が選出された。そのうちの約半数が LSS であった。それまで、ALA は LSS への対応に協力的ではないと言われていたが、前述のウィーベルに基調講演を依頼したことからも判断できるように、方針の転換が図られていった。

COPE3 の目的は、前述の 1997 年実態調査で明らかになった 3 つの課題、すなわち、1) キャリアパス (昇進の機会がほとんどない)、2) 教育、経験、責任の重さに合った報酬がなされていない、3) 継続教育や研修の機会が極めて少ない、について議論することであった。それ以外にも、LSS への対応で欠けている、求人 (Recruitment)、役割の変化 (Changing roles)、ALA における LSS 会員の任務と ALA の責任、等の多くの課題が取り上げられ、それらを踏まえて勧告文書が作成された。勧告文書を抜粋して示すと以下のとおりである。

- 1) ALA や、その部会、委員会、タスクフォース等の委員に LSS 会員も指名する方法を探ること。
- 2) LSS が実質的に参加できるよう会費制を検討すること⁴¹⁾。
- 3) ALA と LSSIRT は、地域、州、地方の図書館協会で LSS 問題を認識するよう共同の努力をすること。同時に、協会の会員になるメリットを広報すること。
- 4) LSSIRT は、ALA ラウンドテーブルから ALA 部会に移動する期日を設定し、戦略を練ること⁴²⁾。
- 5) ALA と LSSIRT の Web 上の就職案内は、すべての図書館職員を対象にすること⁴³⁾。
- 6) ALA は、2002 年の「図書館情報学と人的資源利用政策方針」の補足として、LSS のキャリアパスを設定するタスクフォースを設ける必要がある。そのキャリアパスを検討するときは、標準的な職務名、職員の研修・開発の基準、資格証のレベル、能力、報酬、等も考慮すること。タスクフォースは、職務記述や分類 (職階) も検討し、モデルとして使用可能なサポートスタッフとライブラリアンの職務も記述する

こと。

- 7) ALA は, 2004 年までに年次の給料調査の中に, LSS の給料も含めること⁴⁴⁾。
- 8) ALA は, LSSIRT や他の関係組織と協力して, ALA-APA が運営管理する全米的な任意 LSS 資格証プログラムの開発の可能性を調査すること⁴⁵⁾。
- 9) ALA は, 図書館教育委員会 (Committee of Library Education) によって 1998 年に改定された「図書館技術助手養成プログラムの規準 (案)」(Criteria for Programs to Prepare Library Technical Assistants) を承認すること。そして, それらの規準を定期的に評価・分析するプロセスを確立すること⁴⁶⁾。
- 10) ALA, LSSIRT, その他の関連グループは, 地域や地方における LSS の研修の機会を現在以上に促進し, 支援すること。そして, オンライン製品に対する技術セミナー, 利用者支援, 閲覧等と特定領域に焦点を当てること⁴⁷⁾。
- 11) 正式の教育をつづけている図書館職員や, 研修に参加する図書館職員のために, 奨学制度等を設けること⁴⁸⁾。
- 12) LSSIRT が努力して, *American Libraries* と *Library Journal* の両誌にサポートスタッフのための定期的なコラムを設けるようにすること⁴⁹⁾。

7.4 LSS 資格証授与プログラム (Library Support Staff Certification Program : LSSCP)

2000 年当時の公共図書館界は, 地方自治体の財政的な逼迫や専門職ライブラリアンの絶対数の不足等から, 小規模の図書館や地域館においては専門職ライブラリアンを雇用できない状況にあった。そのような状況の中で, 2003 年に西部州図書館協会 (Western Council of State Libraries)⁵⁰⁾ は「図書館実践者にとっての必須スキルの同定と訓練機会の増加」(Defining the Essential Skills of Library Practitioners and Increasing and Improving Training Opportunities) とい

うテーマで連邦政府機関の Institute of Museum and Library Services (以下, IMLS) にプロジェクト助成を申請し受理されていた。西部州図書館協会のいう“Library Practitioners”とは、「MLSを有しない館長」を指していた。2007年には“Library Practitioners”のためのプログラムを開発し、資格証を授与し始めた⁵¹⁾。その後、ALAは共同でLSS資格証授与プログラム(Library Support Staff Certification Program: LSSCP)を設置すべく、2007年に西部州図書館協会に打診・交渉した。その結果、共同でLSSCPプロジェクトを開始すべく、IMLSに助成申請を提出することになった。助成獲得に成功し、ALA-APA(ALA Allied Professional Association)は、2009年に4箇所での実験の後、2010年にLSSCPを実行に移した⁵²⁾。

8. まとめ

本稿では、LSSの概要についてLSS運動という観点から検討した。まず、LSSが社会的に認知された可能性のある時期を探った。次に、LSSの活動をLSS運動と捉えて時系列的に論じた。その際、職階上、LSSの上位にあたる専門職ライブラリアンと対比させるため、ライブラリアンの認定に深く関わるALAの動きにも言及した。

2004年時点で、大学図書館と公共図書館で働いている図書館員(図書館職員)の過半数(69%)は、図書館情報学の修士号を保持していない。そして、全米で約16,000あるとされる公共図書館の少なくとも半分、特に地方の図書館や都市の地域館では、修士号を保持していない職員、すなわちLSSによって運営されている可能性は高い⁵³⁾。

LSSは、ほとんどのコミュニティや大学において質的に高度な図書館情報サービスを提供する際に、極めて重要な役割を果たしている。しかし、彼らに与えられている教育機会は様々である。より適切な人材を雇用するために、LSS用の就職試験や就職後のトレーニングを行っている図書館があり、また、小規模の公共図書館に対して、各州独自(“home grown”)の養成プログラムを開発している⁵⁴⁾。現在ある養成(教育)は内容において様々に異

なっており, ある図書館から他の図書館へ, もしくはある州から他の州への移転が不可能である⁵⁵⁾。

しかしながら, 図書館職員に対して非常に大きな影響力を持つ ALA が, COPE3 の時点まで, ほとんど対応策を取ってこなかった。ALA 作成の COPE3 運営委員会報告書には, ALA は, ‘American LIBRARY Association’ ではなく, ‘American LIBRARIANS’ Association⁵⁶⁾ であると書かれ, 別の文献でも, LSS に対する態度を「好意的な無視 (benign neglect)」であると記述されている⁵⁷⁾。

その後の ALA の動きは, 本文に記述したとおりである。LSS の「何より, 我々は, ALA の図書館チームの一員であると評価された (Most of all, we are recognized as part of the ALA Library Team)⁵⁸⁾」ということばがアメリカ図書館界における LSS の立場を物語っている。

2010 年から開始された LSS 養成プログラムが, LSS の将来にかかわることは間違いなく, アメリカにおける図書館職員の枠組みが変化する可能性を秘めている。今後の LSS の動向に留意する必要があるだろう。

註

- 1) 山本貴子, 大城善盛, 漢那憲治, 中島幸子, 「アメリカにおける図書館職員の要件と資格」, 『大谷学報』90:1 (2010), p. 49-69.
- 2) 「アメリカにおける図書館職員の要件と資格」と同じ用い方とする。
- 3) The Williamson reports of 1921 and 1923 : including Training for library work (1921) and Training for library service (1923). Scarecrow Press, 1971.
- 4) Edward B. Martinez, “In the Beginning, There was Support Staff...”, American Library Association LibrarySupportStaffResourceCenter, <http://www.ala.org/ala/aboutala/offices/hrdr/librarysupportstaff/history_of_library_support_staff.cfm> [2011-01-08]
- 5) J. Pidduck, “Curriculum for Library Clerical Aids,” California Journal of Secondary Education (November, 1938).
- 6) Faust, C. H. The preprofessional education of librarians. In B. Berelson (Ed.), Education for librarianship (Papers presented at the Library Conference, University of Chicago, August 16-21, 1948) (pp. 93-109). Chicago, IL: American Library Association.; McDiarmid, E. W. Training of clerical and subprofessional workers. In B. Berelson (Ed.), Education for librarianship. Unpublished paper presented at the Library Conference, University of Chicago, August 16-21, 1948.

- 7) Hermanson, Robert, Educating and training library practitioners: a comparative history with trends and recommendations. *Library Trends*. Jan 1, 1998
- 8) Linda Owen, "Feature," *Associates*. Vol. 2, No. 3. <<http://bubl.ac.uk/archive/journals/associates/v02n0396/featur2.htm>> [2011-01-08]
- 9) Hermanson, Robert, "Educating and training library practitioners: a comparative history with trends and recommendations." *Library Trends* (1998) <http://findarticles.com/p/articles/mi_m1387/is_n3_v46/ai_20977938/> [2011-01-08]
- 10) ALA Library Support Staff Resources Center, *Milestones of the Library Support Staff Movement*. <http://www.ala.org/ala/aboutala/offices/hrdr/librarysupportstaff/milestones_of_the_library_support_staff_movement.cfm> [2011-01-08]
- 11) Linda Owen, "Feature," *Associates*. Vol. 2, No. 3. <<http://bubl.ac.uk/archive/journals/associates/v02n0396/featur2.htm>> [2011-01-08]
- 12) Council on Library/Media Technicians, *COLT: Objectives-History*. <<http://colt.ucr.edu/history.html>> [2011-01-08]; Linda Owen, "Feature," *Associates*. 2:3. <<http://bubl.ac.uk/archive/journals/associates/v02n0396/featur2.htm>> [2011-01-08]
- 13) American Library Association, "Library Education and Manpower", *American Libraries*. Vol. 1 (April 1970), p. 341-344.
- 14) Lester Asheim, "The Preparation and Use of Library Manpower," *Bulletin of Medical Library Association*. 60:2 (April, 1972). <<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC197685/pdf/mlab00150-0036.pdf>> [2011-01-08]
- 15) Criteria for Programs to Prepare Library Technical Assistants <http://www.ala.org/ala/mgrps/divs/acrl/about/sections/cjcls/collaborate/Report_of_the_Committee_on_EducationLRS.pdf> [2011-01-08]
- 16) Council on Library/Media Technicians, *COLT: Objectives-History*. <<http://colt.ucr.edu/history.html>> [2011-01-08]; Linda Owen, "Feature," *Associates*. 2:3. <<http://bubl.ac.uk/archive/journals/associates/v02n0396/featur2.htm>> [2011-01-08]
- 17) We Honor Raymond Roney and LIBRARY MOSAICS, The Magazine for Support Staff <<http://ala-apa.org/newsletter/2005/12/17/we-honor-raymond-roney-and-library-mosaics-the-magazine-for-support-staff/>> [2011-01-08]
- 18) "Distance Learning." *Library Mosaics* (July-August 2002)
- 19) Martinez, Ed. "Certification of Library Support Staff." *Library Mosaics* (November-December 1991) : 7-10.
- 20) LIBSUP-L <<http://mailman1.u.washington.edu/mailman/listinfo/libsup-l>> [2011-01-08]
- 21) <<http://associates.ucr.edu>> [2011-01-08]
- 22) LibrarySupportStaff.com <<http://librarysupportstaff.com>> [2011-01-08]
- 23) Council on Library/Media Technicians, *COLT: Objectives-History*. <<http://colt.ucr.edu/history.html>> [2011-01-08] ; Linda Owen, "Feature," *Associates*. Vol. 2, No. 3. <<http://bubl.ac.uk/archive/journals/associates/v02n0396/featur2.htm>> [2011-01-08]

- 24) Oberg, Larry R. et al., "The Role, Status, and Working Conditions of Paraprofessionals: A National Survey of Academic Libraries". *College & Research Libraries*. 53:3 (1992) p.215-238.
- 25) American Library Association, Office for Library Personnel Resources, Standing Committee on Library Education, World Book-ALA Goal Award Project on Library Support Staff, *Library Support Staff Issue Papers*. <<http://www.ala.org/ala/educationcareers/education/3rdcongressonpro/librarysupportstaff.cfm>> [2011-01-08] ; Kathleen Weibel, *Library Support Staff: Ten Issues*. <<http://www.ala.org/ala/educationcareers/education/3rdcongressonpro/librarysupportstaff.cfm#Description>> [2011-01-08]
- 26) 'About World Book', World Book Corporate <<http://www.worldbook.com/about-world-book-inc.html>> [2011-01-08]
- 27) Support Staff Workshop Ideas. <<http://lists.webjunction.org/wjlists/publib/1997-April/079477.html>> [2011-01-08]; Weibel, Kathleen. "I Work in a Library But I'm Not a Librarian." *ALA Library Personnel News* 2:1 (Winter, 1988) p.8.
- 28) Iowa Library Association. Support Personnel Subdivision: History. <<http://www.grinnell.lib.ia.us/sps/history.htm>> [2011-01-08]
- 29) Library Support Staff Resource Center <http://www.ala.org/ala/aboutala/offices/hrdr/librarysupportstaff/library_support_staff_resource_center.cfm> [2011-01-08]
- 30) *Journal of Education for Library and Information Science* の Vol. 36 No. 1 (1995) では, 'Special Issue: Educating Support Staff' として, 3~54 ページの特集を組んだ。
- 31) Council on Library/Media Technicians, 1995 Outstanding Support Staff of the Year Award: Ruth Tolbert. <<http://colt.ucr.edu/awards95.html#STAFFAWARD>> [2011-01-08]; Council on Library/Media Technicians, 1995 Outstanding Supporter of Support Staff: Arolana ("Lana") M. Meissner. <<http://colt.ucr.edu/awards95.html#supportaward>> [2011-01-08]
- 32) ALA SSIRT Task Force on Compensation, *Final Report*. <<http://www.ala.org/ala/mgrps/rtssirt/issirtstratplan/taskforcereports/compensa.pdf>> [2011-01-08] ; ALA Support Staff Interests Round Table, *Summary of Survey to Determine Top Three Issues of Concern to Support Staff*. <<http://ala.org/ala/mgrps/rtssirt/issirtstratplan/issuessurvey/Results.pdf>> [2011-01-08]
- 33) ALA SSIRT Task Force on Compensation, *Final Report*. <<http://www.ala.org/ala/mgrps/rtssirt/issirtstratplan/taskforcereports/compensa.pdf>> [2011-01-08]
- 34) Council on Library/Media Technicians, *A Position Paper on Skill Certification for Library/Media Support Staff*. 1997. <<http://colt.ucr.edu/coltcert.html>> [2011-01-08]
- 35) ALA SSIRT Task Force on Career Ladders (Few Opportunities for Advancement), *Final Report*. <<http://www.ala.org/ala/mgrps/rtssirt/issirtstratplan/taskforcereports/career.pdf>> [2011-01-08]
- 36) *1939 Code of Ethics for Librarians* <<http://www.ala.org/Template.cfm?Section=coehistory&Template=/ContentManagement/ContentDisplay.cfm&ContentID=8875>> [2011-01-08]

- 37) *Code of Ethics of the American Library Association* <<http://www.ala.org/ala/issuesadvocacy/proethics/codeofethics/Code%20of%20Ethics%20of%20th.pdf>> [2011-01-08]
- 38) ALA SSIRT Task Force on Compensation, *Final Report*. <<http://www.ala.org/ala/mgrps/rts/lssirt/lssirtstratplan/taskforcereports/compensa.pdf>> [2011-01-08]
- 39) ALA/SSIRT Task Force on Access to Continuing Education & Training Opportunities, *Final Report*. <<http://www.ala.org/ala/mgrps/rts/lssirt/lssirtstratplan/taskforcereports/conteduc.pdf>> [2011-01-08]
- 40) American Library Association, 3rd Congress on Professional Education: Focus on Library Support Staff, *Report of the Steering Committee*. <http://www.ala.org/ala/educationcareers/education/3rdcongressonpro/COPE3Final_Report.pdf> [2011-01-08] ; American Library Association, 3rd Congress on Professional Education: Focus on Library Support Staff (COPE III) ; Implementation Report (excel document). <<http://www.ala.org/ala/educationcareers/education/3rdcongressonpro/3rdcongressprofessional.cfm>> [2011-01-08]
- 41) その後, 2004 年に, サポートスタッフのための特別会費制が実施された。
- 42) その後, 2004 年の会議で, LSSIRT は, 会員が増えて財政的に安定するまで, その移動を延期することを決めた。
- 43) 2005 年からこのように変更された。また, ALA の Web サイトには, Library Support Staff Resource Center もある。<http://www.ala.org/ala/aboutala/offices/hrdr/librarysupportstaff/library_support_staff_resource_center.cfm> [2011-01-08]
- 44) ALA-APA は 2005 年からサポートスタッフの給料も調査するようになった。
- 45) LSSIRT が 2004 年にそのテーマで Web 調査を実施した。そして, ALA-APA は資格証プログラムを開発し, 2010 年から実施している。
- 46) ALA 評議員会は規準を 2004 年に承認した。規準の定期的な見直し・更新は図書館教育委員会の責任である。
- 47) ALA の 2004 年の年次大会において, サポートスタッフのために会議の中の会議 (Conference-Within-A-Conference) を開催した。そして, 開催委員会は LSSIRT, 学習ラウンドテーブル (Learning Round Table), COLT の代表で構成された。
- 48) コレクション構築/テクニカル・サービス協会 (Association for Library Collections and Technical Services) は Sage 出版社の支援を得て 2005 年に, サポートスタッフが ALA 年次大会に参加するための助成制度を設置した。大学研究図書館協会 (Association of College and Research Libraries) も 2005 年にサポートスタッフが全米大会に参加するための助成制度を設置した。
- 49) *Library Journal* は 2000 年から, “Paraprofessional of the Year Award” を設け, その人を誌上で紹介している。
- 50) Western Council of State Libraries ; ミシシピー河以西の 22 州の州立図書館が会員である。

- 51) Library Practitioner Certification Program (n.d.) Retrieved April 13, 2008. <<http://certificate.westernco.org/>> [2011-01-08]
- 52) Linda Owen, “Feature,” *Associates*, 2:3. <<http://bubl.ac.uk/archive/journals/associates/v02n0396/featur2.htm>> [2011-01-08] ; Jenifer Grady & Barbara Marson, “The Library Support Staff Certification Program: Past, Present, and Future,” *WORLD LIBRARY AND INFORMATION CONGRESS: 74TH IFLA GENERAL CONFERENCE AND COUNCIL*, August 2008, Québec, Canada. <http://archive.ifla.org/IV/ifla74/papers/136-Grady_Marson-en.pdf> [2011-01-08]
- 53) National Center for Education Statistics (2004). 2004 Academic Libraries Survey. <<http://nces.ed.gov/pubs2007/2007301.pdf>> [2011-01-08]; National Center for Education Statistics (2004). Federal-State Cooperative System Survey. <http://nces.ed.gov/surveys/libraries/pub_data.asp> [2011-01-08]
- 54) Christina Landram, “A Test for Applicants for Paraprofessional Cataloging Positions,” *Cataloging & Classification Quarterly* 4:1 (Fall 1983) p.73-78. ; Anderson, David G., Shelton, Judith M. “Use of Work Sample Exercises as Part of Screening Candidates for Support Staff Positions in Cataloging”. Georgia State University Digital Archive @ GSU, 1-1-2005 <http://digitalarchive.gsu.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1011&context=univ_lib_facpub> [2011-01-08]
- 55) Jenifer Grady & Barbara Marson, “The Library Support Staff Certification Program: Past, Present, and Future,” *WORLD LIBRARY AND INFORMATION CONGRESS: 74TH IFLA GENERAL CONFERENCE AND COUNCIL*, August 2008, Québec, Canada. <http://archive.ifla.org/IV/ifla74/papers/136-Grady_Marson-en.pdf> [2011-01-08]
- 56) American Library Association, 3rd Congress on Professional Education: Focus on Library Support Staff, *Report of the Steering Committee*. *ibid*.
- 57) Jana Varlejs, Editor, David R. Dowell, “COPE III and the Future of the Library Workforce”, *Journal of Education for Library and Information Science*, 45:2 (Spring 2004) p.162-165.
- 58) Anna Marie Kehnast, “From MIG To LSSIRT: A Support Staff Odyssey”, <<http://www.ala.org/ala/mgrps/rtss/lssirt/lssirtresources/FinalMig2LSSIRT.pdf>> [2011-01-08]

^a (本学准教授 図書館情報学)

^b (花園大学非常勤講師 図書館情報学)

^c (龍谷大学教授 図書館情報学)

^d (梅花女子大学講師 図書館情報学)

〈キーワード〉 図書館サポートスタッフ, ライブラリアン,
Council on Library/Media Technicians